

# カウアイ島派遣報告

井口美咲

## スケジュール

### 1 日目

初めに、リフエ空港の出口で現地の皆さんからの出迎えとレイのプレゼントがありました。その後、ホストファミリーの方が車でワイルア川やジュラシックワールドの撮影場所に連れて行ってくれました。日本ではあまり見ることのない規模の雄大な自然が広がっていてとても新鮮でした。夜はハワイの伝統的な食事をホストファミリーの皆さんが振る舞ってくれました。かつて王族しか口にできなかったとされるモイという魚もいただきました。



### 2 日目

1 日目に続き、ホストファミリーの車で島の名所を巡りました。まずワイメア溪谷や「地球上で一番濡れている場所」と言われるワイアレア山の近くに連れて行ってもらいました。ワイアレア山は年間12000ミリ以上の雨が降ります(日本の最も降水量の多い場所でも4000ミリほど)。近くに行っただけでも雲や霧で湿度が高いのを感じました。山を下りてからはポイプビーチに向かいました。そこには昼寝をするために陸に上がってきたウミガメが4, 5匹ほどいました。このウミガメは条例で守られており、ウミガメが安心して昼寝をするためにも人間は常に3フィート以上離れていないといけません。近年ウミガメを食べるサメが増えていて、保護しないとウミガメの数が減少する可能性があるそうです。その後潮吹き岩も見に行きました。



### 3日目

この日は現地の高校を一日体験しました。生徒が授業ごとに教室を移動すること、学校にカフェテリアがあることに加え、教室の席が初めから向かい合わせになっていたり、パソコンを使ってノートに書き込む生徒が少なかったりと日本の学校とは違うところを多く見つけることができました。しかし、休み時間に友達同士で話したり、宿題を見せ合って確認したりなど自分の学校でも見られる光景もありました。また、私が話した生徒の多くは様々な人種の混血で、この学校はもちろん、島全体でも人種間の差別を感じることは全くないと言っていました。学校が終わってからは海がきれいに見えるリゾートを散歩し、ピククルボールで遊びました。ピククルボールは卓球のラケットに似たラケットでテニスのようにボールを打ち合うスポーツで、アメリカでは人気があるそうです。



### 4日目

この日は博物館を見学した後、カウアイ島やハワイの文化体験を行いました。博物館では、伝統的な衣装や王族の肖像、かつての移民についての紹介を見て、ただ旅行に行くだけではわからないハワイの歴史について知ることができました。その後の体験では歌に合わせてウクレレを弾いたり、フラダンスを教えてもらったり、ティーリーフを使ったレイ作りを体験したりしました。どれも初めは難しかったけど、このような文化が今でも残っているのはみんなが自分たちの文化を大切にしているからだと感じることができました。



5日目は早朝から空港に向かい、日本に帰りました。

## 5日間を通じて

まず、いろんなものの大きさが日本に比べて大きいことが印象的でした。道路の幅やスーパーの売り場、商品の内容量など、サイズ感がちがうと感じました。

他には、住民同士のつながりが深いと感じました。私たちのホストファミリーはすれ違った人の多くが知り合いで、親しげに挨拶をしていました。また、ホームパーティーを行ったときも、親戚以外の人達も参加していて、全体的にオープンな雰囲気でした。ずっとこの島で暮らしているので幼いころから知っている人が多く、助け合うことを大事にしているそうです。日本で地域の付き合いというと少し面倒な印象がある人が最近は多いですが、カウアイ島のみんなの距離感はとても過ごしやすい印象を受けました。

ホストファミリーとの会話や学校での話など、日本や守山市のことを話す機会が多かったのですが、とても興味深そうに聞いてくれました。学校生活の違いや学校外の活動についてなどのほかにも、漢字や日本のゲームについてなど、たくさん話をしました。また、日本の商品は高品質で人気ようで、スーパーで日本製のものが少し高価だったり、ホストファミリーの経営する店にウォッシュレットが売っていたりしました。近年日本国内でも言われているように、海外では日本の物や文化は人気が高いようです。

今回のカウアイ島での体験を通じて、自分たちとは違う国や文化の人とも心を通じ合わせることができるということを改めて実感できた上、自分たちの住む守山市や日本により誇りを持つことができるようになりました。ただ英語ができるだけでなく、相手の文化を体験して、交流しようとする姿勢を見せることで感じ取れる様々な国や地域の住民特有の価値観や愛情があるように感じました。これからも身の回りのたくさんの未体験や未知に触れることで自分の感性や自分自身を磨き続けたいです。

最後に、私たちの5日間を忘れられない思い出にしてくれたコガファミリーの皆さんと、この派遣を計画してくれたカウアイ郡と守山市、協力して下さった全ての方々に感謝を申し上げます。たくさんの方の支えがあったことを忘れずに、これからの将来に生かしていきたいです。



現地に到着したときに思ったこと。

私にとって、この派遣は初めての海外渡航でした。ホノルルでは日本人観光客がとても多かったのですが、リフエ空港に着くと日本人らしき人はほとんどおらず。カウアイでは「観光地としてのハワイ」とはまた違ったハワイを見られるのではないかと。そんな期待を胸に空港でスーツケースを待っていました。

ホストファミリーとはリフエ空港で初めてお会いし、お花でできた「レイ」をいただき、とても嬉しかったです。ホストファミリーの家へ向かう車の中で、守山にはない壮大なビーチと山々を眺めながら、本当にこの島は守山と姉妹都市でいいのだろうか、そんな疑問が出てきました。



リフエ空港



## カウアイの自然

カウアイ島は、ハワイ諸島の中で最初にできた島です。ホストファミリー曰く「**本当のハワイはカウアイにしかないよ。**」

ホストファミリーの車に乗って、様々な場所を案内してもらいました。

### ①Waimea Canyon

ホストファミリーの家から車で1時間ほど。(時差ボケでいっぱい寝てしまいました、、、そして、車で流れていたレゲエミュージックをすごく気に入りました、、、) 太平洋のグランドキャニオンとも称されるこの渓谷は、今考えても信じられないような壮大さ、美しさでした。カウアイ島は、この巨大な渓谷のために島を一周することができません。長い時間をかけてハイキングするか、船で反対側へ行くか。島の全貌を把握できない時代の人々にとって、島を隔てる巨大な渓谷は少し恐ろしくも、神聖でもあったのかなと想像しました。



### ②美しすぎるビーチたち

ドライブの中で、いくつかの海岸やビーチを訪れました。ゴルフコース近くの海岸を散歩してみたり。実際に泳いでみたり。ボランティアの方からウミガメの説明をもらったり。

カウアイの美しすぎるビーチたちを存分に楽しみました。



## カウアイ高校を訪れて思ったこと。

私は教育に興味があるので、事前にホストファミリーともたくさん日本とアメリカの教育の違いを話していました。まず、アメリカの公立高校には「高校入試」という概念がありません。学区が定められていて、私立高校に通うという選択肢以外、原則どの高校に行くかは決められています。ホストファミリーは日本では公立高校でも入試があるということにとっても驚いているようでした。（確かに公教育に入試があるということもおかしいような気がしました。）

## 3日目、私たちはカウアイ高校（Kaua'i High School）を訪れ、いくつかの授業を受けました。



これは私がバディーの生徒と参加した授業の時間割です。まず、学校の時間の短さに驚きました。日本の、部活がほぼ毎日あるなんていうのもとても変に感じるそうです。日本の多くの学校とは違い、先生ではなく生徒が教室を毎回移動するというスタイルでした。移動の間に中庭で楽しくおしゃべりしたり、けん玉（驚きました）をプレイしたりする生徒が多かったです。とても自由な印象を受けました。



私が参加した「日本語クラス」のみんなと。日本大好き！という生徒がとても多く、びっくりしました。

## 派遣を通して考えたこと。

冒頭私は、なにもかもが違うように思えた守山市とカウアイ郡が、姉妹都市でいいのだろうかということを書きました。でも5日間を過ごしたことで、そんな疑問は少しずつなくなっていきました。守山とカウアイはどこかが似ているような気がして、ずっとその正体を考えていました。このことをホストファミリーに話すと、「それは人じゃない？」と教えてくれました。ホストファミリーは、ハワイには「アロハスピリット」というものがあると教えてくれます。相手が誰であっても、どこからきた人であっても、助け合う、感謝し合うという考えのことで。私は5日間を過ごして、間違いなくそんな雰囲気がカウアイにはあると感じています。守山にも、そんな雰囲気があるのかもしれませんが。カウアイの人たちに日本や守山のことを聞かれる中で、改めて守山についてよく考え、言語化するようになりました。私の住む地域では、よく近所の方が野菜を持ってきてくれたり、畑仕事を手伝ってくれたりします。カウアイでも、屋根を張ったりするのを当たり前のように助け合うそうです。場所も、生活環境も、言語も何もかも違うふたつの（姉妹）都市に感じた共通点は、「人」のあたたかさだったのかもしれませんが。

そして、ふたつの離れた都市が姉妹都市として機能するには、間違いなくそんな「人」の努力が欠かせません。国際交流協会の方々、現地のコーディネーター、ホストファミリー、、、そういった方々の思いがあるからこそ、カウアイと守山は姉妹都市として交流することができています。せっかく続いているこの守山とカウアイの関係が、これからもずっと絶やされないようになればいいなと感じた帰りの飛行機です。

みなさん、本当にありがとうございました。

# カウアイ群派遣報告書

松山和葵

## 1. 文化

カウアイ島に上陸し、ホストファミリーのお宅で最初に頂いたのは、日本の海苔巻きと唐揚げが入ったお弁当、そして日本の緑茶でした。ハワイの離島で、日本の料理が食べれること自体が衝撃的で、同時に嬉しかったです。

カウアイ島はかつてサトウキビ農園の労働者を確保するため日本、中国、ポルトガル、インドネシア、ドイツ、ノルウェー、スコットランド、プエルトリコから移民を受け入れた歴史があり、中でも日本からの移民が最も多かったそうです。山口、熊本、広島からハワイへ移住した人が多く、私がお世話になったホストファミリーも熊本から移住した五代目日系アメリカ人でした。異国の地で日本語を喋ることは当時良くないとされたそうで、日本語は受け継がれることはなく、ホストファミリーも日本語は話せませんでした。しかし日本語の名前をミドルネームとして持っておられて、ホストファザーのクレイグさんはいさお、ホストマザーのロリーさんはれいこという名をお持ちでした。漢字が分からなかったのでみんなでお二人の漢字を考えました。

現地の高校を訪問した際、私のバディとなってくれた友達も日系アメリカ人で、先祖がサトウキビ畑の労働者として移住してきたのだと話してくれました。彼女は日本語の一番レベルの高いクラスで授業を取っていて、日本が大好きだと言ってくれました。彼女の他にも日本語の授業をとっている生徒が沢山いて、私が何故日本語を選んでくれたのか尋ねたところ、多くの生徒が自分の先祖が日本人だから、また日本のアニメ、芸術などの文化が好きだからと教えてくれました。私はアメリカのトーランスという日本人が多く住む街に住んでいた経験があるのですが、そこでは現地に住む「日本人」が日本文化を発信している印象で、現地の人と一緒に日本文化を育ててくれていることは少なかったもので、カウアイで日本文化、また日本語が愛されている事を知れて本当に嬉しかったです。

到着初日の夕食後にハワイ語でありがとうを意味する“Mahalo”を伝え、相手の首に首飾りをかけ、ハグをする文化を体験し、私達は日本のあらゆる場面で用いられるお辞儀の文化を共有する時間がありました。私はハワイの文化を学べて嬉しかったし、ホストファミリーも笑顔でお辞儀と一緒にやってくれました。Mahaloとお辞儀は全く違う文化ですがどちらも昔からその土地の人が大切にしてきた習慣で、その意味を理解し、尊重する事はとても大切な事だと感じました。私は日本のお辞儀や、礼儀の文化があまり好きではなかったのですが、お辞儀の本来の意味を思い出し、この文化を守っていかなければならないと感じました。カウアイ島を訪問し、文化を共有し、異国でも日本の文化が愛されている様子を目の当たりにして、カウアイ島はもちろん、日本の良さにも改めて気づくことが出来ました。



---

## 2. 人との繋がり

カウアイ島のほとんどの子供が大学は本土アメリカで勉強し、卒業後また島に戻って来るそうです。私のホストファミリーの家族も全員が大学を卒業し戻って来ていて、皆が近くに住んでいました。クレイグさんがワイミアキャニオンという絶景を見に連れて行って下さったときも、街中にいた時も、色んな人に声を掛けられ、クレイグさんはいつも人に囲まれていました。カウアイ島は香川県ほどの面積に守山市と近い、約8万人の人口を持つコミュニティで、皆がお互いとのコミュニケーション、助け合いを大切にしているそうです。日本では大学で家を出て、そのまま就職するケースが多く見られ、私もそのような将来を考えていたので大学で一度島を離れても、また戻ってくるという文化はカウアイ島の魅力、家族との繋がりを象徴していると感じました。また私のホストファミリーの場合は4時、多くの家族も仕事を早く終え、その後の時間をハイキングやスポーツ、ビーチで過ごすなど家族と過ごす時間にしていました。私の父は夜遅くに帰宅し、週末も仕事をしている事が多いので、島全体で仕事から離れ家族との時間を大切にする文化が守られている事がとても素敵で羨ましく感じました。

## 3. 歴史の授業

派遣して頂いたカウアイ高校で歴史の授業を受ける機会があったのですが、冷戦の話でソ連が悪者として扱われ、アメリカは正しいことをした、資本主義、民主主義を世界に広めようとしていただけだ、と偏った立場の授業が展開されている様子を目の当たりにしました。日本でも平和教育は広島や長崎の訪問など被害者的な目線で行われることが多いように、教育には偏りが出てしまう側面があり、それがその国の国民性にも繋がってしまうのではないかと感じました。絶対的な正解は存在しない為、自分が受けている教育に偏りがあることを認識してあらゆる目線から考えてみることの大切さを感じました。

## 4. カウアイを知ってほしい

カウアイ島には日本からの旅行客が円安が進む前からずっと少ないそうです。それにはホノルルからもう一本飛行機を乗り継がねばならないこと、島の移動が車でないと難しいこと、等様々な理由が考えられますが、カウアイ島はどんな障壁があっても訪れる価値のある場所です。私達を家族のように受け入れ、これ以上ない「おもてなし」をして下さったクレイグさんは日本とカウアイの架け橋になりたいとおっしゃっていました。前述したようにカウアイ島では人との繋がり、多様な移住者によって築かれた多様性あふれる文化、人間の介入を最小限に留め守られている雄大な自然を持っており、唯一無二の経験が出来ます。高校で教えてもらったことですが、ハリウッドのスター達もカウアイ島をバケーション地として訪れていて、度々目撃情報があるそうです。私はカウアイ島の姉妹都市である守山に生まれ、この事業に参加できた事が本当に幸運で、この機会を与えて下さった皆さんに感謝の思いしかありません。守山市とカウアイ群が姉妹都市提携50周年を迎える今、皆さんもカウアイ島を訪れてみてはいかがでしょうか。